

- 1. 委託事業名：** 徳川家康公フィギュアの開発
- 2. 委託事業者名：** 委託団体：有限会社プラッツ  
連携団体：株式会社左京  
連携大学：静岡産業大学総合研究所  
所長代理 谷 和実

### 3. 研究成果概要：

#### [目的]

徳川家康公フィギュアの開発を通して、静岡の2つの地場産業（伝統産業）の連携、大学との連携により、

- 新しい切り口となるものづくり。
- 新しい市場づくり。
- ものだけでなく、文化という付加価値づくり。

をおこなう。

#### [要旨]

徳川家康公が平成27年(2015年)に薨去四百年という記念の年に、プラモデル業界、雛人形業界、静岡産業大学との連携により、地域産業の新しい商品としてフィギュアを開発する。同時に、家康公の歴史的な見地から、観光、文化につながる情報（小冊子）をつくりあげることで、静岡の地域産業・伝統産業の新たな連携の在り方を示すことができる。これは、今後の地域産業の発展に寄与するものと考え。また、中小零細企業や伝統産業が、大学の研究機関と連携したことの実績を紹介できることで、今後の新しい研究や連携のきっかけづくりにも繋がると考える。

#### [研究結果および成果]

##### □地場産業の連携（プラモデルメーカーと雛人形メーカー）

今まで、プラモデルと雛人形の業界の考え方が異なり、連携する機会は無かった。業界が交わらないという既成概念をなくしたものづくりの試みをおこなうことで、「プラモデル」と「雛人形」の両産業の良さを融合した新しい感覚のフィギュアが完成した。

○お顔：徳川宗家からもアドバイスをいただきながら、宗家がお持ちの御影の掛け軸と、東京都の芝の東照宮の木彫を参考にしながら、60～70代を想定したお顔を製作。フィギュア専門の造形師も、宗家にお会いいただき、宗家の骨格や目鼻の位置を確認したところ、掛け軸や木彫

と共通する部分が多いため、宗家のお顔も参考にさせていただいた。

また、今回のフィギュアのメッセージにもある「平和な時代をつくった将軍」というイメージから、やさしさのある面影をつくっていたが、宗家よりアドバイスをいただき、武将としての厳しさもお顔にこめた。

フィギュアの造形技術は、3Dプリンターのように、リアルなデータをそのまま再現するものではなく、実寸大での視覚とミニチュアになった際の視覚がことなることを意識した造形となっている。よって、フィギュアの造形はリアルな形状をデフォルメしていることになる。この作業によって、フィギュアという小さなものであっても、リアルな表情や迫力を伝えることができる。これは、プラモデルメーカーならではの技術と言える。



○体と衣装：「衣冠束帯」「袍(ほう)の素材と紋様」「冠(黒紗遠文垂纓)」「袍(ほう)の素材と紋様」などは、雛人形師の知識と経験を生かし、また、雛人形としての造作をおこなうことで、日本人形としてのイメージを持つつくりとなった。



○大刀：雛人形では、大刀は鞘から抜くことができ、刃がついてはいるものの、リアルさが無い。今回は、プラモデルとしての製造手法を使い、樹脂に金属粉を混ぜ成型したものを使っているため、樹脂製ではありますが、金属の輝きと質感をもった仕上げとなった。



#### □静岡産業大学との連携

静岡産業大学 総合研究所が持つ地域産業や歴史的な見地との連携により、家康公にまつわる歴史とゆかりの地の研究と時代考証をおこなった。

ポイントは、

- ・フィギュアという趣味性の高いコレクション商品。
- ・家康公が礎を築いた「世界史上 例をみない平和国家」で「究極の循環型社会」、また「文化の成熟期」という今の時代に伝えたいメッセージを再構築して発信できる。
- ・家康公ゆかりの地を付録の冊子に盛り込むことで、家康公の物語を元に、静岡市内の神社仏閣を巡るような「静岡の観光」につなげる情報を盛り込む。これにより付加価値をさらに高めたフィギュアとしてつくりあげることができた。
- ・フィギュア・雛人形というマーケットだけでなく、徳川家康公薨去四百年という記念すべき年でもあり、静岡市を全国、または世界にアピールし、静岡を訪れていただけるような機会に、本商品のPRや販売できるマーケットができた。

#### ○徳川家康公フィギュア付属の冊子を作成

家康公の功績を5つのカテゴリーに分けて構成した。

- 1、徳川家康、波乱の人生と駿府：家康公の幼少期・壮年期・晩年期の3期に渡り、駿府（静岡）の地に居を構えたこと。
- 2、資質を涵養した駿府人質時代：人質時代に駿府の街で暮らし、学んだ経緯。
- 3、江戸時代につながる家康壮年期の駿府時代：駿府の地に至るまでの経緯と、駿府の地でおこなった「五か国総検地」「宿場の制度」などについて。

- 4、平和で豊かな社会の基礎作りに邁進した大御所時代：「朝鮮通信使」「オランダ東インド会社の商館開設と朱印状による交易」「スペイン国王フェリペ三世から当時贈られた洋時計の物語」「イギリスとの間でも朱印状による交易」などについて。
- 5、現代にもつながる家康の豊かなくらしの施策：「全国統一貨幣制度の構築」「東海道五十三次の整備」「日本初の金属活字の製作と出版事業」「安倍川の流れを変える治水事業」などについて。



#### [大学等研究機関の果たした役割]

プラモデル・雛人形という製造業ではまとめることができない、徳川家康公にまつわる歴史とゆかりの地の研究と時代考証。また地域産業の連携についての研究により、本フィギュアが、趣向性の高いコレクションや雛人形という世界観だけでなく、家康公がもつメッセージ性と史実による高付加価値化。徳川家康公薨去四百年という機会を活かしたマーケットづくりにつながった。また、地域の産業だけではできないものづくり、ブランドづくりにつなげることができた。

#### [期待できる地域への波及効果]

##### □静岡の「ものづくり産業」への波及効果

プラモデルと雛人形の連携による新しい取り組みは、開発段階において、活動状況を新聞やテレビで放映されるなど、完成前のプロセスから注目された。これにより、地域の産業や伝統産業の衰退が危惧されている中で、新しいものづくりに挑戦することで、新たな価値の創造につながることで、新しい技術の開発につながることで、連携によりお互いがもっている文化や技術の交流ができることを発信できた。また、既存産業の既存マーケットだけでなく、連携活動や、産学の共同研究により、新しいマーケットづくりにもつながる、新しいモデルケースとなった。